

平成25年度

第2回宇治市小中一貫教育推進協議会 資料

平成26年3月10日（月曜日） 17時30分～
宇治市役所庁舎8階 大会議室

目次

1	宇治市小中一貫教育推進協議会設置要項	…	1
2	平成25年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について	…	3
3	平成25年度宇治市小中一貫教育推進協議会委員視察報告一覧	…	4
4	平成25年度小中一貫教育中学校ブロック活動状況	…	5
5	平成25年度中学校ブロック ジョイントプラン総括	…	7
6	小中一貫教育に係る視察受入一覧	…	17
別冊	「宇治市小中一貫教育についてのアンケート報告書」 「宇治市小中一貫教育についてのアンケート報告書（概要版）」 「宇治市の小中一貫教育」（広報紙）		

宇治市小中一貫教育推進協議会設置要項

(目的及び設置)

第1条 「NEXUSプラン」に示された小中一貫教育を総合的に推進するため、小中一貫教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(担任事項)

第2条 協議会は、次の各号に規定する事項について、意見の交換及び調整を行う。

- (1) 小中一貫教育の学校運営に関すること。
- (2) 小中一貫教育の教育課程や指導体制に関すること。
- (3) 小中一貫教育に係る施設・環境整備に関すること。
- (4) 小中一貫教育の研究に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、小中一貫教育に係る必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は、次の各号に規定する者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 宇治市立小学校及び中学校に在学する児童及び生徒の保護者
- (3) 地域関係諸団体代表者
- (4) 宇治市立小学校及び中学校関係者

(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。また、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。

(専門部会)

第 7 条 協議会は、必要に応じて専門部会を設置し、必要とする事項について調査、研究等を行わせることができる。

2 専門部会に部会長を置く。部会長は、会長が指名する。

3 専門部会の構成員は、部会長の推薦により、会長が指名する。

(意見の聴取等)

第 8 条 会長は、協議会において必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第 9 条 協議会の庶務は、教育部教育改革推進室小中一貫教育課において処理する。

(委任)

第 10 条 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

1 この要項は、平成 20 年 4 月 4 日から施行する。

2 この要項の施行後最初の協議会の会議の招集は、第 6 条の規定にかかわらず、教育長が行う。

3 平成 23 年度における最初の協議会の会議の招集は、第 6 条の規定にかかわらず、教育長が行う。

4 委嘱後最初の協議会の会議の招集は、第 6 条の規定にかかわらず、教育長が行う。

附 則

この要項は、平成 23 年 6 月 1 日から施行する。

平成25年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について

宇治市小中一貫教育推進協議会事務局

1 協議会の活動について

小中一貫教育に関する取組全般の進行管理を行い、取組内容の点検確認とともに改善点について意見の交換等を行う。

2 今年度の活動計画について

(1) 年2回の協議会開催 交流・協議による進行管理

- ①第1回協議会 7月17日(水)
- ②第2回協議会 2月～3月開催予定 [年度末進行管理]
- ※本協議会は必要に応じて会長が招集する。(本協議会設置要項第6条)

(2) 中学校ブロックの特色ある取組の視察 学校現場での取組視察による進行管理

- 中学校ブロックの取組を視察し、その後現地にて交流・協議を行う。
- ・視察受け入れ可能な取組を委員が選択し参加する。(2学期予定)
- ・学校と小中一貫教育推進協議会委員の交流・協議の場をもつ。
(管理職や小中一貫教育コーディネーター等に対応をお願いする)
- ※事前に、中学校ブロックに特色ある取組(合同研究会・合同発表会等小・中学校や地域が合同で行う取組)ならびに各小・中学校が実施する授業参観やオープンスクールなどの情報提供及び協議会委員参観の依頼を行う。

(3) プロジェクトチームの設置 必要事項の調査・研究

今年度も専門部会(22年度までは学校運営・教育課程・地域連携の3部会を設置)については設置せず、協議会の場でさらに深く調査、研究等を必要とする事項が生じた場合にプロジェクトチームを設置する。プロジェクトチームの構成員は協議会委員の中から選出する。

3 今年度活動報告

(1) 協議会

- ①第1回協議会 7月17日(水)
- ②第2回協議会 3月10日(月)

(2) 中学校ブロックの特色ある取組の視察

10/25(金)	北宇治中学校 [北宇治中学校B]	—
11/ 1(金)	神明小学校 [西宇治中学校B]	榊原会長・江口副会長
11/13(水)	東宇治中学校 [東宇治中学校B]	—
11/14(木)	宇治小学校 [黄檗中学校B] 黄檗中学校	小池委員
11/22(金)	北槇島小学校 [槇島中学校B]	部委員・田邊委員・伊家委員・ 荻野委員
11/26(火)	木幡小学校 [木幡中学校B]	—
11/26(火)	西大久保小学校 [南宇治中学校B]	—
11/27(水)	南小倉小学校 [西小倉中学校B]	鵜飼委員
12/10(火)	大久保小学校 [広野中学校B]	上田委員
12/14(土)	宇治中学校 [宇治中学校B]	吉田委員
1/27(火)	西大久保小学校 [南宇治中学校B]	下山委員

※全中学校ブロック(委員視察は7中学校ブロック)の取組視察を実施
[3中学校ブロックは事務局のみ]

※視察時に視察ブロック関係者と意見交流や協議を実施

(3) プロジェクトチームの設置について
25年度はプロジェクトチーム未設置

平成25年度宇治市小中一貫教育推進協議会委員視察報告一覧

取組名 【中学校ブロック】	視察校	日時	視察者	視察対応者	視察内容	協議内容 等
小・中合同授業研究会 【北宇治中学校B】	北宇治中学校	10/25(金) 13:50～	— 米田(事務局)		授業参観 事後研究会 全体会参観	
小・中合同授業研究会 【西宇治中学校B】	神明小学校	11/1(金) 14:40～	榊原会長 江口副会長 海老瀬(事務局) 米田(事務局)	川嶋校長(西宇治中) 小畑校長(神明小) 辻教諭(西宇治中チーフコーディネーター) 中村教諭(神明小コーディネーター) 立原教諭(伊弉小コーディネーター)	授業参観 協議	○西宇治中学校ブロック取組 ○チーフコーディネーターによる小中連携授業 ○チーフコーディネーターの校務分掌上の位置づけ ○小・中の接続に視点をあてた授業研
半日体験入学 【東宇治中学校B】	東宇治中学校	11/13(水) 13:30～	— 米田(事務局)	松崎校長(東宇治中) 吉永校長(三室戸小) 久保田教頭(東宇治中) 山根教諭 (東宇治中チーフコーディネーター) 小林教諭(三室戸小コーディネーター) 澤山教諭(岡屋小コーディネーター) 上口教諭(南小コーディネーター)	半日体験参観 協議	○半日体験参観 ○小中合同授業研究会 ○PTA・育友会合同研修会
児童生徒会行事 【黄檗中学校B】	宇治小学校 黄檗中学校	11/14(木)	小池委員 米田(事務局)	伊家校長(宇治黄檗学園) 芦田副校長(宇治黄檗学園) 葛山教諭(宇治小チーフコーディネーター)	宇治黄檗学園 会(児童生徒 会)選挙参観 協議	○小中一貫校の取組
小・中合同授業研究会 【槇島中学校B】	北槇島小学校	11/22(金) 14:45～	薮委員 田邊委員 伊家委員 荻野委員 海老瀬(事務局) 米田(事務局)	石田校長(北槇島小) 松居校長(槇島小) 小谷教諭(北槇小チーフコーディネーター)	授業参観 協議	○槇島中学校ブロックの取組 ○小・小連携の重要性 ○分散進学
小・中合同授業研究会 【木幡中学校B】	木幡小学校	11/26(火) 15:45～	— 海老瀬(事務局)	坂井校長(木幡中) 梅本教諭(木幡中チーフコーディネーター)	授業参観 協議	○授業研究
小・小合同授業研究会 【南宇治中学校B】	西大久保小学校	11/26(火) 13:45～	— 米田(事務局)	江口校長(南宇治中) 濱野校長(西大久保小) 川合校長(平盛小) 上田教諭 (南宇治中チーフコーディネーター) 俣野教諭(西大久保小コーディネーター)	授業参観 協議	○小小連携事業 ○その他
小・中合同授業研究会 【西小倉中学校B】	南小倉小学校	11/27(水) 13:45～	鵜飼委員 米田(事務局)	吉田校長(西小倉中) 山下校長(南小倉小) 南教頭(西小倉中) 浦田教頭(西小倉小)	授業参観 全体会 協議	○授業研究会 ○教職員の意識
児童生徒交流事業 【広野中学校B】 ※中学校1年生による小学校6年生への読み聞かせ(紙芝居)	大久保小学校	12/10(火) 13:50～	上田委員 海老瀬(事務局)	山田校長(大久保小) 瀬野校長(広野中) 島田教諭 (大久保小チーフコーディネーター) 小林教諭(広野中コーディネーター)	事業参観 協議	○児童生徒交流事業 ○広野中学校ブロック取組
小学生部活動体験 【宇治中学校B】 ※地域行事において小学生の中学校部活動体験	宇治中学校	12/14(土) 10:00～	吉田委員 海老瀬(事務局)	大越校長(宇治中) 堀井教頭(宇治中) 鵜飼教諭(南小倉小チーフコーディネーター)	「ふるさと宇治21」(地域行事) 参観 協議	○地域行事における部活体験 ○分散進学 ○宇治中学校ブロック取組
児童生徒交流事業 【南宇治中学校B】 ※中学生による小学生へのクラブ指導	西大久保小学校	1/27(火) 14:40～	下山委員 海老瀬(事務局)	濱野校長(西大久保小) 上田教諭 (南宇治中チーフコーディネーター)	中学生による小学生へのクラブ指導参観	

平成25年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(1)

小中一貫教育課

	◎ ブロック目標 ○ 運営組織体制 □ チーフコーディネーター校務分掌 ◇ 教科連携教員教科等	○ 合同研修会	○ 夏期研修会	○ 授業研究会	○ 体験活動 □ 児童生徒交流活動	○ 保護者・地域へ見える取組	○ 学力診断テスト活用 □ 授業システム ◇ 家庭学習の取組	その他 ○10/17チーフコーディネーター会議での発言ポイント □ 研究指定事業
1	宇治中B ◎「ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生き方を求め続ける子の育成」 ○ブロック校長会、事務局会議、コーディネーター会議、9専門部会 □小学校生指主任(教務フリー) ◇【市:英語】	○小中合同研修会4回(5/9,8/21,10/30,1/29)	○8/21 ・全体会 宇治中の取組 ・専門部会	○1学期宇治中授業参観 ○11/21苑二小外国語活動研究発表参観 ○10/8菟道小社会科中間発表参観	○11/13 半日体験入学 ・授業体験 ○12/14ふるさと宇治21 ・部活体験 ○11/1駅伝での部活指導	○12/14 ふるさと宇治21 ・小中学生の参加 ・小学生の中学校部活体験 ○一貫教育日より、啓発掲示板、学校だより	○いしずえ専門部会で分析 □「授業づくり部会」 ・授業における話し合いの仕方 ○「家庭学習の手引き」活用	○ブロック組織改善・中学校を理解する取組(夏期合同研修会) □菟道二小…外国語活動発表 菟道小…社会科中間発表
2	西宇治中B ◎「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」 ○ブロック校長会、コーディネーター会議、4専門部会 □中学校 ◇【市:英語】	○小中合同研修会4回(6/21,8/22,11/1,3学期)	○8/22 ・生徒指導 ・学力分析 ・事前研	○11/1 神明小 合同研修 ・授業公開 9教科、3～6学年+特支学級、14授業 ・事後研 ・夏期研で事前研	○11/13 半日体験入学 ・部活体験 ○駅伝での部活指導	○11/9 オープンスクール…3校で同時開催 ○一貫教育日より、啓発掲示板、学校だより	○夏期合同研修会で分析 □「課題克服のための手立て・付けたい力」設定 ・乗り越えるために付けておくべき力 ・今後、小・中学校で留意すべき点 ○「家庭学習の手引き」活用	○授業研究会の内容・チーフコーディネーターの活動
3	横島中B ◎「豊かな人間性と未来を創造する子どもへの育成」 ○ブロック校長会、「夢・未来」会議、コーディネーター会議、6専門部会 □小学校教務主任 ◇【市:英語】	○小中合同研修会4回(6/21,8/19,11/22,3学期)※6/21気象警報発令のため中止	○8/19 ・小・小合同研修(虐待、同学年部会) ・学力診断テストの状況研修 ・専門部会 ・教科、領域部会	○11/22 北嶺小 合同研修 ・授業公開 国語6年、算数5年、外国語活6年 ・教科連携教員、担任のTT授業 ・事後研 ・夏期研で事前研	○11/13 半日体験入学 ・授業体験、部活動体験 ○10/29～31 職場体験 ・中2が北嶺島小、横島小両校で □児童会・生徒会合同あいさつ運動 □小中学生の主張交流会	・一貫教育日より、啓発掲示板、学校だより、横中B小中一貫教育リーフレット、横中B小中一貫教育ポスター ・3校PTA役員交流 ・地域行事(夏祭り、餅つき、クリーン運動)での小中学生、地域住民との交流 ・児童会・生徒会合同あいさつ運動 ・小中学生の主張交流会	○コーディネーター会夏期研で報告・研修 □「授業システム5視点」設定 ・授業準備、授業の開始・終了を明確に ・授業改善 めあて、スモールステップ、板書 ・授業ルール 私語なし、挙手して発表 ・授業終了 まとめ ・その他 学び合い協力 ○「家庭学習ナビゲーション」活用(4月冊子配布)	○ブロックで学力分析をして課題と解決への方策提起。チーフコーディネーターの活動 □北嶺島小…土曜活用事業
4	北宇治中B ◎「自ら考え、自発的に表現できる子、人と地域のつながりの中で豊かな心を育て他を大切にする」 ○ブロック校長会、コーディネーター会議、8専門部会 □中学校教務主任 ◇【市:英語・保体】	○小中合同研修会4回(6/17,8/21,10/25,2/17)	○8/21 ・全体会…学力分析 ・教科領域部会…事前研 ・教科外部会	○10/25 北宇治中 合同研修 ・授業公開 9教科、中1、3学年+特支学級、13授業 ・事後研、全体会 ・夏期研で事前研	○11/13 半日体験入学 ・授業体験、部活動体験 ・児童・生徒会交流(募金活動、書き損じはがき回収の取組、交流会)	○1/25小中一貫教育合同講演会「小中一貫教育で育てたい力」を学習意欲の面からの考察(教職員、保護者、地域を対象に) ○一貫教育日より、学校だより	○夏期合同研修会で分析・報告 ○生活面とのクロス分析 □「授業改善の4視点」設定 ・いしずえ学習の取組・主体的に授業参加できる場面 ・「聞く・話す・書く」場の設定・教科における学習規律	○教育合同講演会の内容 ○研究授業の取組
5	西小倉中B ◎「小中9年間を通して、地域と共に子どもたちの豊かな心と確かな学力をばぐむ」 ○研究推進委員会、ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議 □小学校教務主任 ◇【府:英語】	○小中合同研修会4回(5月,6月,8/23,11/27)	○8/23 ・各校学力分析報告 ・生徒指導報告 ・教科等部会…授業案事前研	○11/27 南小倉 合同授業研究会 ・授業公開 7教科 1～6学年+特支学級 14授業 ・事後研、全体会(先進地視察報告) ・夏期研で事前研	○12/3 半日体験入学 ・授業、部活動体験 □児童・生徒会交流(募金活動、研修会)	○一貫教育ニュース、啓発掲示板、学校だより	○夏期研で報告 □「授業の約束4視点」設定 ・いしずえ学習の取組 ・主体的に授業参加できる場面 ・「ことばの力」を高める ・教科・領域学習における学習規律 ○「家庭学習の手引き」活用	○家庭学習促進研究指定事業(H25-26) ・実態調査 ・先進地視察 ・学習支援員活用による家庭学習の仕方・返し方・ノート活用指導 ・啓発活動

平成25年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(2)

小中一貫教育課

	◎ ブロック目標 ○ 運営組織体制 □ チーフコーディネーター校務分掌 ◇ 教科連携教員教科等	○ 合同研修会	○ 夏期研修会	○ 授業研究会	○ 体験活動 □ 児童生徒交流活動	○ 保護者・地域へ見える取組	○ 学力診断テスト活用 □ 授業システム ◇ 家庭学習の取組	その他 ○10/17チーフコーディネーター会議での発言ポイント □ 研究指定事業
6	広野中B ◎「夢や希望を持って未来を切り拓ける子の育成」 ○ブロック校長会・コーディネーター会議・8専門部会 □小学校生指主任(主幹教諭) ◇【府:数学算数】	○小中合同研修会2回 (5/20,8/19)	○8/19 ・全体会…各部の報告 ・分散会…小・小学年部会、小学校6年と中学校で体験入学時の授業研究、特支・養護部会	○11/22広野中 半日体験入学 ・小中教員合同TT授業研究 ○小連携 1～5学年で授業交流研修 6学年で体験入学時の交流計画 ○各校の授業研究会に参加	○11/22 半日体験入学 □小6児童の流(体験入学時)□児童・生徒会交流・行事 ・福島県中学校との交流、ホッミーティング3回、募金活動 □12/10 中1年による小1年への読み聞かせ	○10/26 家庭学習促進研究講演会 ○HOOPニュースを家庭配布、啓発掲示板、学校だより、学園HP、3校行事表 ○2/19 小・中PTA家庭学習合同研修会	○夏期研で報告 □「授業システム8視点」設定 ・時間を守り授業開始・授業の初め終わりには挨拶・持ち物宿題の確認・めあての確認・手を挙げて発表・板書・振り返ってノート・先生はまどめをする ◇「家庭学習の手引き」活用	○□家庭学習促進研究指定事業(H25・26) ・実態調査・先進地視察 ・学習支援員活用による家庭学習の仕方・返し方・ノート活用指導 ・啓発活動 ・研修講演会開催
7	南宇治中B ◎「夢や希望を持ち、未来をたくましく生き抜く児童生徒の育成」 ○ブロック校長会・コーディネーター会議・推進委員会 8専門部会 □中学校教務主任 ◇【府:理科】:推進委員会に参加	○小中合同研修会6回 (5/16,5/23,6/25,8/21,9/17,11/21)	○8/21 ・特支講演 ・QU活用 ・教科部会 ・領域部会	○合同研修 ・5/16南宇治中授業参観、5/23平盛小授業参観、6/25西大久保小授業参観 ○宇治学部授業研究会(小小連携授業) ・11/26西大久保小6年「帰国児童理解学習」、1/23平盛小4年「宇治茶」 ○外国語活動英語部授業研究会(事前研、参観、事後研) ・10/22平盛小6年、11/13西大久保小5年 ○連携授業(理科)部授業研究会(事前研、参観、事後研) ・5/23平盛小6年、6/25西大久保小6年、11/5南宇治中2年	○10/24 部活動体験 ○2/6・7・17 半日授業体験 □南宇治中中文学交流5/24、10/18 ○児童会生徒会合同会議7/26 ○児童生徒会交流行事…挨拶運動(11/12～15) □中学校部活動による小学校クラブ指導1/28、1/31	○6/18,12/3児童会生徒会合同地域清掃ボランティア活動 ○11/9 学校公開(オープンスクール)…3校で歩調合わせて開催) ・生徒会による中学校紹介 ○小中一貫教育だより(6月、12月、3月) ○啓発掲示板設置 ○学校だより、学校ホームページ	○夏季研、コーディネーター会議で報告 □夏季研、専門部会で交流 ◇夏季研、専門部会で交流	○連携教員授業(地域・保護者への公開) ・10/10西大久保小6年理科 ○3校合同環境学習 ・6/7西大久保小6年 ・6/11平盛小76年 ・6/11・12・14南宇治中1～3年 ○漢字検定 ・11/1中学生27名小学生3名参加 ・1/31中学生19名小学生7名参加 ○12/20宇治学部フィールドワーク ○2/19中学1年生職場訪問(西大久保小、平盛小)
8	東宇治中B ◎「命を輝かす人間」 ○ブロック校長会・コーディネーター会議・3専門部会 □中学校教務主任 ◇【府:英語】	○小中合同研修会3回 (5/20,8/22,11/17)	○8/22 ・学力分析 ・実践報告 ・分科会	○1/17東宇治中 合同研修 ・公開授業 中1全6級 7講座 ・事後研(KJ法)	○11/13 半日体験入学 ・授業、部活体験 ○作品交流展 □小学校友会行事への参加(生徒会)	○11/22 小・中PTA合同保護者研修会 ○一貫教育だより、啓発掲示板、学校だより ○12/7・8 おおばくまつりへの参加	○夏期研で報告 □「先生と生徒の授業10カ条」(東宇治)設定 ・ベル着授業準備、授業初めの挨拶、教室の整頓・宿題点検・ねらい提示・手を挙げて発表・私語しない教え合い・要点をノート・振り返り・終わりの挨拶 ◇スクールリポートブックの作成配布 ◇先スタの取組	○教科連携教員(英語科)の活用 ・夏期合同研修会で活動報告 ・小・中PTA合同研修会で報告
9	木幡中B ◎「故郷で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」 ○ブロック校長会・推進委員会・コーディネーター会議・8教科部会・6専門部会 □中学校 ◇【府:理科】	○小中合同研修会3回 (5/15,8/21,11/26)	○8/21 ・教科部会 ・領域部会 ・全体会…部会報告 ・全体研修…進路	○11/26木幡小・御蔵山小・笠取小 合同研修 ・公開授業 5,6学年 8教科 8授業 ・小・中教員TT授業 ・事後研 ・夏期研で事前研	○11/13 半日体験入学・部活動体験 □11/27, 2/5 中学生によるスポーツ教室 □11/1, 11/5 駅伝指導 □12/2 児童生徒会交流 □1/30～2/7 中学生作品の小学校巡回展示	○「おもしろいやんか木幡」行事に中学生がボランティア参加 ○一貫教育通信(毎月全家庭)、啓発掲示板、学校だより(毎月・全6年生へ) ○1/31, 2/21 6年生保護者会での「進路学習会」	□「小中一貫継続指導事項6視点」設定 ・挨拶・時間を守って行動・掃除・身だしなみ・授業を大切に家庭学習の習慣化・校内決まりを守る ◇「家庭学習の手引き」活用	○授業研究会の内容
10	黄檗中B ◎「高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成」 ○校長、コーディネーター会議・4専門部会 ※小中一体の組織を構成し会議研修等合同実施 □小学校教務主任 ◇【市:英語】	○小中合同研修会3回 (6月、8/23,3月) ・本年度の重点 ・教育相談 ・児童生徒理解 ・特別支援 ・情報機器活用 ・学力充実 ・危機管理	○8/22,23 ・本年度重点の確認 ・講演…探求学習、チーム学習 ・学力テスト…分析結果と今後の重点取組 ・教育相談のABC ・特別支援に関する児童生徒理解の方法	○1学期 小・中学校合同研修 2学期授業参観週間形式で実施 ○「5つの授業重点事項」を設定して学年、教科で実践化	○3学期 6年生の中学授業体験・部活体験 □11/14学園会本部役員選挙(演説会、中後期合同行事) ○2・3学期 宇治学 ・5～7年生合同学習 ○学校行事(体育大会・文化祭) ○縦割活動(1～7年) ○OBAKUミーティング(進学に向けて6・7年生交流)	○学園行事 9/27(中)文化祭、10/12(小)体育大会、11/9学園土曜参観・オープンスクール ○一貫教育だより「きずな」、啓発掲示板、学校だより、HP ○子どもフェスティバル等育友会行事への部活生徒ボランティア参加 ○クリーン運動への部活生徒の参加	○夏期研で研修 ○学園独自標準テストの活用 □「中後期リハス」配布活用 □「5つの授業重点事項」設定 ・見通しを持たせる・見やすい板書を考えるを持たせ表現する場の設定・「話す・聞く・伝える力」の育成・学習環境の整備 ◇「家庭学習の手引き」活用	○家庭学習習慣形成の取組

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名: 鶴飼 宏明(所属校: 菟道第二小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・昨年度の推進組織を再編成し、重点課題を設定して取組を推進する。 ・ブロック小中合同研修会を年に4回開催し、課題解決に向けた取組を推進する。	成果 ・1回目の合同研修会にてブロック小中一貫教育の全体計画を提案し、今年度の重点課題や1年間の見通し等を教職員全体で共有することができた。 ・小中合同研修会は、計画通り4回設定できた。最後の合同研修会では各部で総括し、事務局会議を経て、3月の職員会議で来年度の方向性を確認する。	課題(改善策) ・本ブロックは合同研修会を専門部会担当校毎に同時開催している。そのためブロック全教職員が集合するのは、夏季(第2回)合同研修会のみである。この機会をさらに増やすことができれば、コーディネーターや管理職は全ての専門部会の様子を見ることが出来る。しかし、中学校は放課後も生徒が活動しているため、合同研修会の形で部会を行うことは難しい。部会ごとでの開催が望ましい。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・ブロック小中一貫教育組織を9の専門部会に編成し、全ての教職員がいずれかの部会に所属し、小中合同研修会での討議を通して、中学校ブロック全体に提案する。またブロック小中一貫教育全体についての共通理解をより充実させるため、チーフコーディネーターが各専門部会の検討・交流内容をまとめ、各校の職員会議で部員より口頭報告をする。 ・専門部会の中で、連携・交流部会が宇治中半日入学者部活動体験を、また特別活動部会が夏休み地域学校、卒業メッセージなどを検討し、児童生徒が直接交流する機会を設定する。	成果 ・昨年度は12あった専門部会を今年度は9に再編成した。また各部会の人数を各校均等に配置した。そのため教員数が最も少ない菟道小学校も複数配置することができた。またいくつかの専門部会では、チーフコーディネーターが企画に参画し、取組の支援ができた。 ・小中合同研修会毎にまとめを作成し、各校の職員会議に各校専門部会担当の教員に報告してもらうことができた。これまでのような単なる紙面報告だけでなく、一言添えてもらうことで、各専門部会の取組をよりイメージすることができた。	課題(改善策) ・合同研修会の報告は、9つの部会が行うため、全てが終了するまでそれなりの時間を要する。中には報告の時間確保が難しい学校があった。会議の時間確保のため、開始時間の厳守や討議の仕方を工夫することが必要である。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・専門部会(外国語・英語部会)が教科連携教員(英語科)による有効な相互連携授業の活用を検討・実施する。 ・専門部会(生徒指導部会)が授業規律の検討を深め、提案・実践する。	成果 ・4月当初から教科連携教員を活用した授業が実施できた。また菟道二小の外国語活動の研究成果を、専門部会及び教科連携教員を通して菟道小に広げることができた。さらに宇治中学校ととも1の英語との関係を、小中連携して検討することができた。	課題(改善策) ・今年度当初に市教委から提示された到達目標(授業研究)を実施することが十分できなかった。来年度は授業に関わる部会(授業づくり部会)で、小中一貫教育を意識した授業研究を開始したい。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・専門部会(授業づくり部会)で検討されている授業スタイルが実践できるよう、普段の授業においても小中一貫教育を意識した授業を進める。	成果 ・昨年度授業づくり部会で検討されていた、授業における話し方・聞き方の基本形を、菟道小・菟道二小の各教室に掲示することができた。	課題(改善策) ・年度当初に市教委より提示された到達目標(授業研究)を実施することができなかった。来年度は授業に関わる部会(授業づくり部会、宇治学部会、外国語・英語部会、人権・道徳部会)で、小中一貫教育を意識した授業研究を開始したい。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・専門部会(いしずえ学習部会)を中心に、各校での学力課題の交流・分析を通して重点指導事項(計算領域)を整理・提案し、基礎学力の充実を図る。 ・昨年度完成した「ふるさと学習(宇治中学校区宇治学)」を実施しながら交流し、各校における「ふるさと学習」をより深く理解し合いながら、指導内容を改善していく。	成果 ・専門部会(宇治学部会)では、「ふるさと学習(宇治中学校区宇治学)」で活用されていた各校のプリントを冊子にまとめ、ブロックで共有することができた。 ・専門部会(いしずえ学習部会)では、小学校の府学力診断テストの分析結果の交流を通して、中学校ブロックとしての課題を明確にし、学力向上に向けての取組を交流、各校に発信することができた。	課題(改善策) ・年度当初に市教委より提示された到達目標(授業研究)を実施することができなかった。来年度は授業に関わる部会(宇治学部会)で、小中一貫教育を意識した授業研究を開始したい。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に発信する。地域行事へ児童生徒が共に参加するなどの保護者地域へ目に見える取組の工夫を図る。	・保護者向けの「小中一貫教育校だより」を学期1回発行する。年度末には1年間の取組をまとめ、リーフレットを発行する。 ・専門部会(交流・連携部会)が部活動体験を、より充実できるよう検討する。	成果 ・学期末に保護者向け「小中一貫教育校だより」を発行することができた。 ・チーフコーディネーターが授業参観を初めとする各校の行事への参加や支援を通して、保護者に教員の連携する姿を見せることができた。 ・宇治中で行われた地域行事「ふるさと宇治21」での部活動体験では、専門部会で検討した工夫(参加学年をより広げる、より親しみのある名称にする等)や中学校の協力により、昨年の約3倍(150名程度)の小学生を参加させることができた。	課題(改善策) ・「小中一貫教育だより」及びまとめのリーフレットをより有効に活用するため、今年度末に来年度の執行方法を検討する必要がある。 ・部活動体験(「クラブフェスティバル」)はさらに充実した内容となったため、来年度も継続させていきたい。
到達目標7	教職員の実践力向上及び小学生の部活動体験の充実をめざす。	・各校の授業公開に積極的に参加しながら自らの授業実践の向上を図る。 ・中学校生活での重要な役割を担う部活動を小学生が体験し、中学校生活及び将来に向けて夢や希望が持てる取組を推進する。	成果 ・保護者向け授業参観案内を各校にも配布し、教員の各校への授業参観の機会を増やすことができた。 ・部活動体験は、陸上部が太陽が丘にて駅伝小中合同練習を実施することができた。また宇治中で行われた地域行事「ふるさと宇治21」での部活動体験では、専門部会で検討した工夫(参加学年をより広げる、より親しみのある名称にする等)や中学校の協力により、昨年の約3倍(150名程度)の小学生を参加させることができた。	課題(改善策) ・年度当初に市教委より提示された到達目標(授業研究)を実施することができなかった。来年度は授業に関わる部会(授業づくり部会、宇治学部会、外国語・英語部会、人権・道徳部会)で、小中一貫教育を意識した授業研究を開始したい。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【西宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名: 辻 雄司(所属校: 西宇治中学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	成果と課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	コーディネーター会議を定期的実施し、取組内容を検討する。三部会(学力充実部、児童生徒理解部、児童生徒交流部)の充実を図る。	成果	チーフコーディネーターが各校に相互連携授業で出向くため会議の回数を減らし、スムーズな連絡・調整ができた。
			課題(改善策)	9年間を見通した教科指導、児童生徒指導、特別活動の交流など深く掘り下げた会議が各校の行事や授業時数等の関係で持てない状況にある。合同研修会の前に三部会を持っているが年度当初にそれぞれの部会の関係者が大変忙しい時期ではあるが集まれる機会を持つ必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	定期的に教職員の合同研修会を実施し、西宇治ブロックの課題を明確にし、9年間を見通した計画的・継続的な教育活動を進める。	成果	6月に児童生徒理解部の合同研修会、8月に学力分析と授業研究会に向けた事前研究会、11月に公開授業研究会と事後研究会が実施できた。小学校の駅伝の指導に中学生が参加できた。
			課題(改善策)	年3回の合同研修会は定着しているが、児童生徒交流部会が各校ともクラス担任であり持ちにくい状況にある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	年間を通して教科連携教員(英語)を計画的に活用するとともにチーフコーディネーターによる相互連携授業を充実させる。	成果	年間を通して教科連携教員(英語)を計画的に活用することができた。チーフコーディネーターが小学校に18週間、計800時間程度の相互連携授業(出前授業を含む)が実施できた。(2小学校に9週間、400時間程度)また、3校の抱える課題なども一部ではあるが把握できた。
			課題(改善策)	相互連携授業については、様々な状況(専門教科や校務分掌など)がクリアできないと難しい状況である。また、他校に出向いている関係で児童生徒指導面でアドバイスはできても踏み込んだ指導は難しい。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	「学習の手引き」を継続配布し、家庭学習の徹底や授業規律について西宇治ブロックで共通的な目標を設定する。中学進学に向けた小中連携の充実。	成果	事前研究会で、授業研究会に関した単元ではあるが、9年間を見通した教科指導を考えることができた。新小学1年生と他校から中学校に入学する生徒分の「学習の手引き」を配布することができた。
			課題(改善策)	「学習の手引き」を活用した家庭学習のあり方や授業規律の確立など西宇治ブロックで共通した理解・取組が必要である。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしづえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「宇治学」、「いしづえ学習」の実施計画について検証し、統合や道筋を重視した9年間を見通したカリキュラムの作成に努める。	成果	3校の計画を基に連携できる部分(職場体験など)を模索することができた。
			課題(改善策)	3校で検証する時間が持たず、年間計画の統合や筋道を重視したカリキュラムの作成までできなかったが、「宇治学」の分野では9年間を見通して行事等を組む必要がある。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	小中一貫教育の実践的研究について保護者や地域に向けて情報の発信を行う。3校の校内掲示板に各校の「学校だより」等を掲示し、各校の情報を発信する。	成果	3校の校内掲示板上に「学校だより」や様々な取組内容を掲示し児童生徒に情報を発信できた。小中一貫教育の実践を保護者向けにリーフレットを配布できた。(10月)
			課題(改善策)	今後も情報を発信する予定であるが、地域への働きかけが難しい状況である。
到達目標7	西宇治中ブロックの重点課題である「進路指導を見据えた学力の向上」に向け、学力分析や課題の克服に計画的・継続的に取組を進める。	合同研修会や教科部会、三部会を充実・発展させる。公開授業研究会に向けた事前研究会、授業後の事後研究会を実施する。	成果	夏の合同研修会で、学力分析とその課題をもとに、「9年間を見通した授業等の工夫」という研究主題で事前研究会をもち、11月に授業研究会(小3年～小6年までの全クラス、全教科)を実施、事後研究会を持つことができた。
			課題(改善策)	研究授業の単元について9年間を見通したカリキュラムが見えてきたが、他の単元や領域についてのカリキュラムも今後必要になる。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【槇島中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:小谷 実 (所属校:北槇島小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、チーフコーディネーターが各校コーディネーターと連携・協力をしながらリーダーシップを発揮し、小中一貫教育に向けた取組を推進する。そのために関係校に向向いの児童生徒の実態把握や指導サポート、各種研究・取組の調整を積極的に行う。	成果 チーフコーディネーターが、「夢・未来」会議やコーディネーター会議の設定や関係校に向向くことにより、連絡・調整・共通理解を進め、小中一貫教育の取組を計画的に実施することができた。また、「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制が定着する中で、継続した研究や取組が定着している。	課題(改善策) 「夢・未来」会議・コーディネーター会議での一層のビジョン共有を基に、3校の教職員の共通理解を大切にしながら、中学校ブロックの教育目標やめざす子ども像を実現するための様々な取組を進めていく必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	平成20年度から研究を進めてきた小中連携・小中一貫教育の成果や課題を踏まえて作成した小中一貫教育の計画を、児童生徒や地域の実態に応じた、めざす子ども像に迫る取組へ充実・改善を図る視点を持って、実践・検証する。 特に教職員交流では、学力の充実・向上と合同研究授業の充実を図る取組を年間を通して推進する。	成果 教職員研修では、これまでの取組と合わせて、ブロックの学力分析やそれを踏まえた合同研究授業を3教科領域で実施し、児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。 児童生徒交流は、中学校体験入学や小中学生の主張交流会、職場体験、地域行事など、当初の計画どおり進めることができた。部会での協議を経て、新たに児童会と生徒会が協力したあいさつ運動も実施できた。	課題(改善策) 一つ一つの取組について課題を整理し、次年度に引き継ぎ改善・充実を図る。合同研究授業については、様々な設定方法を模索しながら、授業を通して、児童生徒の姿を通して、系統的・統一的な指導のあり方を追究する機会として、継続・発展させていく。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担当制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	小学校高学年の外国語活動に中学校英語科の教科連携教員が入り、担任とのチームティーチングで指導を進めることにより、中学校の専門性と小学校の児童に寄り添うきめ細やかな指導を融合させた中期モデルの授業を追究する。 また、教科連携教員やチーフコーディネーターが、小・中学校間を行き来することにより、日常的児童生徒や指導の実態を交流し、連携を深める機会とする。 小学校高学年においては、小中一貫教育連携教員による小学校外国語活動の指導(TT)や学年外教員を中心とした入り込み授業、担任間の交換授業など、中学校の教科担任制につなげる一部教科担当制を積極的に導入する。このことは、複数教員による児童への多面的な指導や組織的な指導体制を充実させるもので、前期区分においても、学年指導体制や交換授業を追究する。	成果 教科連携教員による2小学校での高学年外国語活動での担任とのチームティーチングやチーフコーディネーターによる2小学校での国語支援、中1ふりスタでの小中合同指導、小学校栄養教諭の中学校での食育指導など、小中の教員が連携した指導を進めた。 小学校高学年での、交換授業や連携教員、学年外教員による入り込み授業などを通して、中学校の教科担任制につなげる一部教科担当制を実現し、複数教員による児童生徒への多面的な理解と指導など、組織的な対応を充実させることができた。	課題(改善策) 上記成果を、日々の授業や実践、合同研修や合同研究授業を通して深めながら、本ブロック「授業システム」の統一と授業改善、指導充実を図る。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画(宇治スタンダード)を活用し、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	各教科・領域部会を設定し、年間指導計画(宇治スタンダード)をもとに、小・中学校の指導の実際を交流しながら、系統的・継続的な学習指導実現に向けた研究を進める。	成果 夏季合同研修会で教科・領域部会を設定し、小中学校の年間指導計画(宇治スタンダード)や教科書を使って、指導内容や小中学校をつなぐ指導のあり方について交流した。各教科・領域部会で話し合われた内容を教職員広報で広め、2学期以降の指導の中でそれらを意識した指導を進めた。	課題(改善策) 各校で、年間指導計画の改善点等を小中一貫教育の視点を含めながら整理し、次年度にしっかり引き継ぐ。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「いしずえ学習」については、各校の学力充実の取組の特長を生かしながら、中学校ブロックとしての統一的な内容を盛り込み、家庭学習を含めた学習サイクルの確立に向けた内容へ充実・改善を図る。その際に、昨年度作成した「家庭学習ナビゲーション」冊子を積極的に活用する。 「宇治学」については、平成25年度の実施計画を実践・検証する中で、育てたい能力(観点)の統一化やめざす子ども像に迫る内容の充実に向けて改善を進める。	成果 「いしずえ学習」として、各校の学力充実に関する様々な取組を関連させながら進めることができた。その中で、昨年度作成した「家庭学習ナビゲーション」冊子を活用し、学校での学習と家庭学習を連動させた取組を推進することができた。 「宇治学」学習計画をもとに、各校で実践検証を進めた。また、「宇治学」の育てたい能力を小中で統一するための検討を進めた。	課題(改善策) 「いしずえ学習」や「宇治学」の計画を、今年度の実践を踏まえた改善を図り、次年度に引き継ぐ。 「宇治学」については、2小1中で、小学3年～中学3年の系統性を追究する中で、総合的な学習の時間の趣旨に沿った指導内容作りや育てたい能力の共有化を進めるための研修を設定する。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の情報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。また、学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。	成果 小中一貫教育便り「マキシマム」を年間4号発行し、保護者配布・地域回覧と共にHP掲載を行い、情報発信に努めた。第4号は、カラー版で年間の取組を網羅したまとめ版として作成した。また、小中一貫教育を広報するポスターを作成し、各校や地域施設に掲示した。 地域の夏祭りや餅つき・クリーン活動、中学校文化祭、小中学生の主張交流会、児童会生徒会によるあいさつ運動など様々な取組で、児童生徒が交流する機会を公開することができた。	課題(改善策) 今後も、各校の様々な行事や取組を、小中一貫教育の視点で工夫改善を図りながら、保護者・地域に公開していく。その中で、すばらしい児童生徒のモデルや交流場面を示すことを積極的に進め、小中一貫教育についての保護者・地域の理解を深める。
到達目標7	【各中学校ブロック独自の目標】「地域でつながり、共に支え合い、高め合う子を育てる」(中学校ブロック独自の目標)を達成する。	地域ぐるみで子どもを育てる視点と児童生徒の良いモデルを子どもや地域に発信していく視点を持って、様々な取組を進める。その中で、授業で力を発揮し、仲間と共に力を高め合う児童生徒の姿を実現するための実践・研究を進める。	成果 小中一貫教育ポスターや小中一貫教育便り、「家庭学習ナビゲーション」を通して啓発を進め、家庭・地域との連携強化を図ることができた。また、小中学生の主張交流会やあいさつ運動で、すばらしい児童生徒の姿を保護者・地域に示すことができた。 合同研究授業や小中学校相互の授業参観を通して、児童生徒が主体的に見通しを持って学習に取り組むためのポイントについて確認し、日々の指導に生かすことができた。そのことにより、学習にしっかり取り組む姿、グループで協力して学習する姿を授業参観等で示すことができつつある。	課題(改善策) 「義務教育9年間+α」の連携で、家庭・地域と共に子どもを育てる取組を推進する中で、児童生徒が学級や学校の中で、また地域の中で、友だちや地域の人と協力し高まっていく経験を広げる。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【北宇治中学校ブロック】[チーフコーディネーター名:西川 光二(所属校:北宇治中学校)]

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などにに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	「質の高い魅力的な授業」を目指して、 ・小中共通の4つの柱に基づく合同授業の指導案、授業デザインの作成 ・ねらいを明確にした授業分析 ・「学習意欲」にポイントを置いた魅力的な授業の研究	成果 ・義務教育9年間の系統性・継続性を意識した「学習意欲を高める魅力的な授業づくり」の意識が、徐々に広がってきた。 ・定期的に行うコーディネーター会議により組織的な運営ができるようになってきた。 ・定期的に行った授業参観でも、共通の視点に基づいて参観するようになった。	課題 (改善策) ・義務教育9年間の系統性・継続性を意識した具体的なカリキュラムの検討には至っていない。 ・日常的な職員間の交流が来ていない。 ・合同授業研究会等で意見が盛り上がる一方で、討議時間がどうしても短かった。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	交流事業としては、 ・小中合同授業研究会の開催(2回の事前研と1回の事後研) ・児童・生徒会交流(交流会や募金活動) ・小中合同講演会・シンポジウムの開催 ・生徒指導上の小中一貫のスローガンの確認(み・そ・あ・じ)の取組	成果 ・合同授業研究会が定着し、事前研や事後研でも、積極的な意見交換が行われるようになってきた。 ・教科外部会での活動を通して、授業以外での結びつきも強化されてきた。	課題 (改善策) ・教科外での取組で、今後日常的な交流をどのように進めていくかを推進委員会等で検討する必要がある。 ・検証活動が明確なものになっておらず、推進委員会で具体的に検討していく必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・京都教育大学理学科教授及び大学院生の協力を得て、中・大連携講座で中学校ですでに実施した授業を、チーフコーディネーター(中学校の教諭)が小学校、大学の連携の調整役を行い、「探究的な理科」の実験を小学校の4年生、6年生の全クラスでそれぞれ実施	成果 ・小学6年生を対象とした「体験入学」の取組では、中学校の内容を楽しく紹介した授業体験や部活動体験を行い、小学校と中学校を接続させる取組になっている。 ・乗り入れ授業で、探究的な学習をねらいとする理科の授業を実施することができた。	課題 (改善策) ・上記以外の日常的な取組を具体的に進めることは難しく、今後、一貫教育推進委員会や各部会内で検討していく必要がある。 ・今後の取組を拡大していくための具体的な手立てを検討する必要がある。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・小中一貫教育合同授業研究会の中で、小中連携を意識した指導デザインを時間をかけて話し合い、10月の合同研究授業で実施 ・定期的な授業参観を相互で行うことで、系統的・継続的な学習指導を目指す足がかりの確立	成果 ・宇治学等、一部の教科や領域では、系統的・継続的内容の学習指導計画の作成や検討が行えた。 ・小中合同授業研究では、小中学校間の指導内容の関連性・系統性を意識して授業プランを立てることができた。	課題 (改善策) ・日常的な学習には、まだまだ不十分な点が多く、課題も多い。今後は、教科部会においても、日常の授業の中でどのように進めていくかの検討が必要である。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・小中一貫教育推進委員会のコーディネーター部会や学力充実部会の取組として、府の学力診断テストの分析を行い、全体会で発表 ・宇治学部会で、小中の連携を意識した取組についての議論	成果 ・「いしずえ学習」については、小中一貫教育で質の高い授業を目指すための四つの柱の一つであり、授業の中や家庭学習において成果をあげることができた。 ・宇治学では、年間計画や具体的な活動の中身を検討することができた。	課題 (改善策) ・多くの部分で、検討すべき課題が見えてきており、さらに時間をかけて丁寧に検討・改善していく必要がある。 ・小中連携とともに、小小連携が必要となることが明確となった。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・教職員、地域・保護者を対象として「学習意欲」に的を絞った小中一貫教育合同の講演会・シンポジウムの開催 ・上記の講演会の内容を知らせる配布物を作成し配布	成果 ・地域や保護者を対象とした小中合同講演会・シンポジウムを実現することができた。 ・地域・保護者向けにこれまでの取組を各校の学校だより等で紹介することができた。	課題 (改善策) ・講演会等の内容を検討し、より保護者や地域の方々のニーズに応える内容にしていく。 ・情宣活動も含めて、小中学校での取組を地域にしっかり紹介し、参加・協力を得やすい取組を行う。
到達目標7	「自ら考え、自発的に表現できる子、人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にできる子、運動に親しむことにより、楽しく生活できる子の育成」を目指す。	・小中学校の教員が授業を通してつながる工夫の向上 ・小中一貫教育を推進する力を高める組織力の向上 ・保護者、地域住民が学校教育に積極的にかかわることのできる体制づくり	成果 ・小中学校で共通の目標に基づいて授業を展開するようになった。 ・これまでの取組が生徒指導上の課題克服につながるなど、職員間に小中一貫教育のメリットが極度に浸透してきた。	課題 (改善策) ・これまでに蓄積されてきた小学校と中学校の学校文化の違いがあり、望ましい違いは残し、望ましくない違いは改善していくような棲み分けを時間をかけて検討していく必要がある。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【西小倉中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:高橋 宏幸(所属校:西小倉小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などにに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	西小倉中校区の各校長の「確かな見通し」と「明確な方針」のもと教頭部会、教務主任部会が計画に方向性をもたせ、チーフコーディネーターを中心とする3校のコーディネーターが連絡調整と実態を踏まえたより効果的な研修会の企画、運営を図る。 また、コーディネーター会議・研究推進委員会を定期的実施し、取組内容を検討する。	成果 合同研修会は年間を通して計画的に実施することができた。研修会の前や月1回程度、教頭部会やコーディネーター会議をもつことができた。今年度は、夏季合同研修会で合同授業研究会へ向けての指導案作りを行い、11月に合同授業研究会を実施した。また、コーディネーターが中心となって参観の視点や討議の柱を設定し、相互の参観や研修会を実施した。	課題(改善策) それぞれの部会の取組方針や具体的内容の周知の徹底がまだ不十分である。文書作成や合同研修会での議論内容や報告など全職員に知らせ、共通理解を図っていく必要がある。また、研修を深めるための日程調整や時間確保が必要である。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	児童会、生徒会の本部役員の交流をはじめ、児童会生徒会の合同会議を開催し、協働できる取組を企画、実施する。中学校の「振り返りスタディ」や補習に小学校教員が参加するなど、教員が協働して児童生徒の指導にあたる。小学校6年時の課題を踏まえた学習教材を作成する。	成果 相互の参観において参観の視点を明確にし、事後研究会を実施することで小中教員の学びの場とすることができた。生徒指導部会では各校の様子について交流を行い児童・生徒の様子について詳しく知ることができた。また、生徒・児童間交流では、小中の本部役員で街頭募金を行うことができた。	課題(改善策) 生徒指導部会では、交流はできたものの問題行動についての改善策や手法について議論していく必要がある。各校の校時や行事の関係で児童生徒交流がなかなか進めにくい。児童会・生徒会の交流や合同会議など継続してできる取組の計画・実施を進めていく必要がある。また小中連携についても模索していく必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	教科連携加配を積極的・計画的に活用し、英語・外国語活動の授業を教科の専門性を活かして行う。また、小学校高学年において、学級担任の交換授業や入り込み授業を拡充し、教科担任制への円滑な移行を図る。	成果 小学校高学年の外国語活動において、中学加配教員の教材開発や助言を得て、チームティーチングを行い中学校英語に必要な基本的な事柄を小学校外国語活動に取り入れることができた。2小学校の高学年児童は小中連携加配の支援による、活動内容に整合性のある外国語活動や効果的な支援が実施できた。また、中学の先生や外国語に親しむことで中学への不安や戸惑いを軽減できた。	課題(改善策) 中学校教員による専門性を生かした教科学習や小中連携による、教材や指導案を共有していける可能性を探る。昨年度、ブロックで作成した「授業のやくそく」をより効果的な授業改善の手法として活用する必要がある。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	授業参観や研究授業にブロックの教員が参加し、「授業規律の確立にむけた教師集団の一致した方向性」を確認したり、「子どもにとって(わかる)授業づくり」を目指した研修会を行う。研修会では、児童生徒の学力分析をすすめ、学習の定度を確立し、家庭学習の充実を図る。 また、「家庭学習の手引き」の活用にもつた取組を進める。	成果 夏季合同研修会では各学年に分かれ「子どもにとってわかる授業づくり」のための事前研究・指導案づくりを行うことができた。秋の南小倉小での合同授業研究会にはその指導案を基に実践が行われ、ブロック教員と一緒に授業に入り、児童にとって「わかる」授業となった。また、事後研では、感想や授業改善の課題を出すなど意見交流を深めることができた。	課題(改善策) 授業研究のための時間確保や授業を提供する学校だけが負担にならないような工夫。また小中学校をつなぐ、指導方法や具体的な授業改善など、内容にふみこむことができる協議の柱が必要である。家庭学習については家庭学習ノートの意義ややり方について繰り返し丁寧な指導が必要である。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	各校の学力充実部並びに総合的な学習の時間担当の教師が協働して、各取組を進める。	成果 各校の「宇治学」「いしずえ学習」の年間計画や取組内容を合わせることで、小小での統一性、小中での系統性を高めることができた。また、それぞれの計画書の内容を充実させることができた。そのことにより、地域との連携も深めることができた。「いしずえ学習」については、各校で「振り返りスタ」や「補充学習」などの取組を進め学力の向上を図った。	課題(改善策) 本年度の取組の内容や成果を検討し、児童の実態に即した意欲的に取り組める活動内容を充実させていく。また、教員の連携だけでなく地域とのさらなる連携を深めていく。「いしずえ学習」については、「いしずえ学習」を生かして学校での学習スタイルを築き、そのスタイルを家庭で習慣化させる。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	保護者や地域に向けて積極的に情報発信するために西小倉中ブロック共通のホームページを随時更新し、各校ホームページの相互リンク、西小倉中ブロック小中一貫推進ニュースの定期的な発行を行う。	成果 HP掲載や小中一貫教育ニュース・学校だよりを通して、家庭学習促進事業や合同研修会の様子についての情報発信に努めた。また、家庭学習促進事業の啓発を図るために看板を設置することができた。	課題(改善策) 家庭学習促進のためには家庭の協力が必要不可欠である。そのためには小中一貫の実践内容を参観や懇談会・教育講演会等で情報発信を随時していく必要がある。また、各校のHPの中に「小中一貫教育」のコーナーを作るなどの工夫や保護者や地域に対して目に見えるような取組や、より効果的な啓発活動を検討していくことが必要である。
到達目標7	家庭学習習慣の定着を目指した取組を進める。	家庭学習習慣を定着させるために授業の充実を図り予習・復習を中心に据えた学習習慣を定着させるとともに保護者への積極的な「家庭学習の手引き」活用の呼びかけや調査・分析等を行い、授業改善につなげる。	成果 秋田県の小学校における家庭学習の先進的な取組を視察・研修し「学級づくり」や「学びのスタイル」「授業づくり」について学ぶことができた。合同研修会ではその先進校視察の報告やブロックにおける家庭学習アンケートの結果を報告し、家庭学習促進事業への意志統一を進めた。また、福井県の先進校視察では、家庭学習ノートを取り入れられ、今後、西小倉中学校ブロック独自のノートを作成するための参考になった。	課題(改善策) 先進校で研修したことをコーディネーターだけでなく教職員全員のものになるよう努めなければならない。次年度は家庭学習促進事業についての、教職員へのさらなる共通理解と研究を深める。また、ブロック独自の家庭学習ノートの作成やアンケートの実施・分析を数回行い、家庭学習ノートの習慣・定着を目指す。保護者には「家庭学習の手引き」の継続的な活用の呼びかけや教育講演会等で協力を呼びかけるなど情報発信に努める。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書 【広野中学校ブロック】〔チーフコーディネーター名：島田 尚明（所属校：大久保小学校）〕

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果と課題(改善策)	
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の計画的な取組 H24年度の成果と課題を整理した取組の推進 大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 当初計画通り教育活動を実施できた。 学校運営部会、事務局会議(コーディネータ会議)の定期開催により、常に学園事業の進行管理や工夫改善を図った。 新たな児童生徒や教職員の交流事業にも取り組んだ。 小小連携として、学年部会を開催。学年行事や取組の交流のほか、合同の教材研究にも取り組むことが出来た。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 小小連携の学年部会をさらに有効活用できるよう、二校の調整を十分にを行い、年度当初に会議計画を作成すると同時に、直近での確認など計画的且つ、確実な会議の開催に努める必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の組織的な活動の実施 コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上) 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の交流事業及び教職員の参加する各部会とも計画通り実施した。 本年度も「中学生による小学校児童への読み聞かせ」や広野中学校新入生体験学習(Hot-Study)時に小小交流の時間を設定、また、新規事業として「福島ひまわり里親プロジェクト」に合同で取り組むなど、より多くの児童生徒が関わる交流を積極的に進めた。 各部会での提起に対して、各校が同じような歩調で取り組めるようになってきた。 教職員による各部会は、当初計画通り実施し、各節目にはコーディネーターから全教員に報告した。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 各学校とも各々課題を抱えていることから、無理なく効果的な交流事業や取組の更なる工夫が必要である。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 教員の定期的な打合せの時間の確保 各部会の組織的な活動の実施 大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 連携教員の両校6年生への授業(T-T)や広野中「振りスタ」への小学校教員の参加、各校の授業研究会への参加等に取り組んだ。 高学年の交換授業についても約半分の授業で実施できた。 小小合同学年部会で、国語科教材の合同教材研究に取り組み、各校での授業研究に生かした。 今年度も両小学校で頭髪・ピアス等についての啓発プリントを配布し、統一した指導をおこなった。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 小小連携としての定期的な学年部会の開催や日常的な交流を重ねて、さらに有効な連携ができるようにする。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施 コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上) 家庭学習促進研究の取組(家庭学習の習慣を身につけ、自ら課題に適した学習に主体的に取り組むことができる児童生徒の育成をめざして) 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 学力部会が各種学力検査結果分析を行い、各校への学習指導に資する提起を行った。 小小合同学年部会での交流を授業や行事に生かすことが出来た。 3校合同で家庭学習促進に向けて、小学校5年生から中学1年までの担任団を含めて交流したり、合同で講演会等を開催したりするなど研究を進めた。 定期的な事務局会議で各校の情報を交換しながら、3校の校内授業研究会への参加を促した。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 小小連携を活かした指導計画の見直しや小中の系統的・継続的な指導計画をさらに進める。 家庭学習促進に向けて更なる研究・取り組みを進める。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「いしずえ学習」「宇治学」の指導計画の計画及び実施。 特に、「いしずえ学習」においては、全国学力学習状況調査や京都府学力診断テスト、およびブロック独自で取り組むCRTテストの結果を踏まえてその都度見直しをしながら取り組む。 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 宇治学については、昨年度末に作成した計画に即して実施している。中学校では昨年度から小学生への読み聞かせに取り組み、今年は「福島ひまわり里親プロジェクト」に関わる全体読み聞かせにも取り組むなど内容を充実させた。 いしずえ学習については、夏の研修会で学力部会からの提起にしたがい、各校での年度当初の計画を見直ししながら実施している。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 各校の進行状況を部会で交流しながら、来年度に向けて見直しを進めていく。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者・地域への全戸配布。 各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用 各校での行事を活用して積極的に情報発信する。 	成果 <ul style="list-style-type: none"> HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)全4号を、3校の児童生徒家庭と2小学校区の全家庭に配布した。 学園での活動を新聞社に連絡して、記事を新聞に掲載してもらうなど、積極的に情報発信した。 3校の行事予定表を3校の児童生徒家庭に配布した。 頭髪・ピアス等についての啓発文書を、今年度も両小学校で配布した。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 3校の活動をアピールする横断幕を作成したが行事等に間に合わなかったため、来年度は当初から活用したい。 ホームページをこまめに更新したりするなど、保護者・地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。
到達目標7	異学年交流と言語活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合う力の育成を目指した教育活動に取り組む。 	成果 <ul style="list-style-type: none"> 中学1年生による小学1年生への紙芝居の読み聞かせに取り組んだ。 小小合同学年部会で、国語科教材の合同教材研究に取り組み、各校での授業研究に生かした。 3校の校内授業研究会にお互いに参加しあった。 	課題(改善策) <ul style="list-style-type: none"> 各校での「伝え合う力」の育成のための授業研究の成果や課題を交流する活動を考える。 今年の活動で改善すべき所(事後研究会への参加をどうするかなど)を整理して取り組んでいく。 無理なく異学年交流できる取組を模索する。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【南宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名: 上田智子(所属校: 南宇治中学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	コーディネーター会及び推進委員会の計画的実施 教科連携加配教員の効果的な活用 チーフコーディネーターの定期的な学校訪問	成果 コーディネーター会、推進委員会を計画的に実施し、進捗状況の把握、調整を行った。また、コーディネーター会、推進委員会には、教科連携加配教員も参加し、小中一貫教育推進の要として活躍した。チーフコーディネーターが定期的に小学校を訪問し、連絡調整にあたり、5、6年生の外国語活動を中心に授業に参加し、児童の状況把握と指導の接続に努めた。	課題 (改善策) 三校の教職員の意識に温度差がないように、コーディネーターが中心となり、合同研修会等の機会を活用して小中一貫教育推進への意識を高める。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	合同研修会の実施 専門部会の計画的実施 小学6年生の部活動体験、授業体験の実施 中学生による小学生指導支援 小中合同地域清掃ボランティア活動の実施 児童会生徒会合同会議、あいさつ運動の実施 コーディネーター会及び推進委員会での検証活動をもとに取組の実施計画を改善充実 小中一貫教育の項目を含めたアンケートの実施 教職員対象小中一貫教育だよりの発行	成果 年間6回の合同研修会を計画し実施した。小学6年生の部活動体験は雨のため中止となったが、今年度初めてのクラスごとの半日授業体験を実施することができた。中文拳が両小学校で、バレーボール部が西大久保小学校で、サッカー部が平盛小学校で指導支援を行った。6月と12月に地域清掃ボランティア活動を実施し、小学生と中学生がいっしょに活動できた。また、地域清掃活動の事前学習として、小学校と中学校で環境学習に取り組むことができた。児童会生徒会合同会議をもち、あいさつ運動に取り組むことができた。教職員対象の小中一貫教育だよりは、第1号から第4号まで発行した。	課題 (改善策) これまでは取組の計画、調整で手一杯であったので、検証活動をしっかり行っていくことが今後の課題である。各学校がそれぞれ行っている学校評価アンケートも、ブロックですりあわせていく。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	公開授業参観の実施 事前研・事後研を含む授業研究の実施 小中教員が協働で指導案を作成し、チームティーチング授業を実施 授業のきまりの共有	成果 3校全てで全教職員が参加する公開授業を実施した。また、小中学校の理科と小学校外国語活動で、事前研・事後研を含む授業研究会を実施することができた。小中連携加配が、小学校での授業のなかで、中学校の授業のきまりを指導した。	課題 (改善策) 授業のきまりを全教員が共通理解し、指導をなめらかに接続させていく。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画(宇治スタンダード)を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	外国語活動英語部、国語部、算数数学部、連携授業(理科)部の年間を通じた交流、授業研究、学力分析 夏季合同研修会における全教員の参加による教科部会の実施	成果 連携加配やチーフコーディネーターを中心に、年間を通して交流や授業研究を行った。夏季合同研修会では、全教員が参加して教科部会を実施することができた。	課題 (改善策) 学力診断テストの活用や9年間を見通した授業システムの構築、家庭学習の取組をブロックで進める。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「いしずえ学習」の計画的実施 いしずえ学習ワークシートの活用 宇治学部フィールドワークの実施 「宇治学」公開授業の実施 「宇治学」小小連携授業の実施	成果 宇治学部が両小学校で相互乗り入れの公開授業研を実施し、小小連携を推進した。 西大久保小学校6年生対象「帰国児童理解学習」 授業者: 平盛小学校教員 平盛小学校4年生対象「宇治茶」 授業者: 西大久保小学校教員	課題 (改善策) いしずえ学習をブロック全体の取組として、基礎基本の定着に組織的に取り組む。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	学校要覧、学校だより、ブロック教育目標を掲載 学校だより、学校ホームページに小中一貫教育の取組を掲載 他校に学校だよりを配布 (小学6年生には中学校の学校だよりを全員配布) 地域に学校だよりを配布 保護者向け小中一貫教育だよりの発行 小中学校行事計画一覧の作成	成果 小中一貫教育関連のニュースを掲示するための掲示板を設置し、小中一貫教育だより、学校だより等を掲示することができた。保護者向け小中一貫教育だよりは、学期ごとに1号ずつ発行した。年度末に保護者を対象に行った学校評価アンケートの結果を見ても、学校の情報発信に対する評価に高まりが見られた。	課題 (改善策) 引き続き、情報発信に努める。
到達目標7	9年間を見通した個別の支援の充実を図るとともに、各校で取り組んできた食育や環境教育の取組をブロック全体の取組として充実発展させる。	特別支援教育に関する合同研修会の実施 QUの実施と活用 食育の推進と生活習慣の改善 小学校での中学校教員による環境教育授業の実施 地域清掃ボランティア活動の合同実施	成果 スーパーサポートセンターの先生を講師に招き、特別支援教育をテーマに合同研修会を実施することができた。また、日常から、特別支援教育部と教育相談部が中心となり、支援の必要な児童や入級予定の児童が、中学校での支援にスムーズにつながるよう連携に努めた。QUについても合同で研修会を持った。小学校と中学校で、中学校教員による環境教育授業を実施し、地域清掃ボランティア活動につなげることができた。	課題 (改善策) 食育については、それぞれの学校で重点的に取り組んでいるので、今後さらに連携し、生活習慣の改善につなげていく。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【東宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:山根 徳子(所属校:東宇治中学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・コーディネーター会議を定期的に開催し、取組の計画・実行および改善を行う(小中一貫教育教科連携加配教員も参加する)。	成果 ・定期的にコーディネーター会議(校長・教頭・コーディネーター・小中連携加配が参加)を開催し、取組の計画・実行及び検証活動等を行った。	課題 (改善策) ・4校のスクールマネジメントプラン等をもとに共通の課題認識に立ち、さらに取組内容を検討・改善していく。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・各校の状況から児童生徒交流、合同事業の可能性を探り、コーディネーターが中心となって計画を立て、円滑な推進ができるよう担当校、担当学年と調整を進める。	成果 ・コーディネーターや児童生徒交流部会が中心となって、ボランティア交流(プランターの受け渡しやエコキャップ回収の取組等)を進めることができた。	課題 (改善策) ・各校の距離や分散進学等の課題は大きいですが、ブロックの特色を生かした取組内容を検討し、実行できるよう努める。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・小中連携加配を積極的に活用し、英語、外国語活動の授業を、教科の専門性を生かして行う。また系統性を考慮し指導案を生かした授業を行う。	成果 ・教科の専門性を生かし、児童にとって「楽しくわかりやすい授業」、小学校の教員にとって「指導することの抵抗感を取り除く」ことに大きな役割を果たしている。 ・教職員の夏季研修会やPTA(育友会)保護者合同研修会において、小中一貫教育の取組状況を発表し、その成果をしっかりと発信できた。	課題 (改善策) ・各校の移動距離が長く、打ち合わせ等の時間設定には配慮が必要である。 ・小小連携の視点も持ちながら、小中連携加配がパイプ役となり、指導方法や授業交流等を充実させていく。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達に段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・合同研修会で学力向上を目指した授業や指導計画及び実践を交流し、指導の手立てについて話し合い、交流する。	成果 ・合同授業研究会(授業公開・事後研)を実施し、KJ法によって授業内容や指導方法について活発な話し合いがなされた。 ・小中間において互いの理解が進み、今後大切にすべき授業改善のポイント等が明らかになった。	課題 (改善策) ・日常的に小中のつながりを意識した授業づくりを進めていく必要がある。 ・「学力の向上」、「意欲的に学習することの大切さ」等、児童生徒の課題に応じ、学力向上に焦点化した取組を進めていく。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・各校における宇治学の指導計画をふまえ、特色ある取組を交流し、教材など協力できる可能性を探る。	成果 ・児童生徒学力充実部会の中に「宇治学」を位置づけ、系統的な学習ができるよう体制を整えた。 ・夏季研修会で各校の取組や指導計画等を交流し、ブロックの特色を生かす取組や小小連携についても話し合われた。	課題 (改善策) ・ブロックとしての特色を生かすためには、部会等でねらいや具体的な内容などを十分検討し、共通認識に立って実践していくことが必要である。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・小中一貫だよりを発行し、各校で配付・掲示する。 ・取組を学校だより等で紹介し、保護者や地域に情報発信する。 ・ブロック間でだより等を交換し、各校で掲示する。 ・各校における学校行事にコーディネーターが参加し、小中一貫教育についてアピールする。	成果 ・今年度もPTA(育友会)保護者合同研修会を実施することができた。小中連携加配による実践発表は小中一貫教育の成果を発表する機会となり、保護者や地域に向けての情報発信となった。また、保護者同士の連携を深める機会としても意義あるものとなった。	課題 (改善策) ・保護者や地域社会の小中一貫教育に対する理解・関心がまだまだ低い状況にあり、相互連携の取組を一層進める必要がある。
到達目標7	「東宇治中ブロック校」の特色を活かした小中一貫教育を推進する	・教職員全体が意欲的に取り組めるように、研修会の計画や児童生徒の実態交流等の話し合い活動において、推進3部会(独自組織)を機能的に活用する。	成果 ・これまで児童生徒の交流が中心であったが、公開授業を通して互いの指導力の向上を目指した小中合同授業研究会がスタートできたことは大きな前進点である。	課題 (改善策) ・推進3部会をさらに活性化させ、9年間の出口を意識した特色ある教育活動が展開できるようにする。 ・各校のスクールマネジメントプラン等をもとに、取り組む課題を焦点化して、ブロック内で一致した指導ができるよう努める。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【木幡 中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:梅本 聡 (所属校:木幡中学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	ブロック校長会、教頭会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。6領域部会および8教科部会の定例化を図り特色のある取組を推進する。	成果 ブロックが広範囲で学校数も多く集まりにくい状況であるが、定期的に推進委員会を開催し様々な取組を行うことができた。年間3回の小中合同研修会を中心に各教科、領域部会を開き推進委員会と常に調整を図りながら取組を実践することができた。	課題(改善策) 今年度領域を4部会から6部会に変更したが、部会によって取り組み方や方向性が異なり常に同じ歩調で取り組むことが難しく今後の課題となっている。ブロックの特色ある取組を進めるに当たり、分散進学の問題は大きな課題となってくる。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・各校の学校行事の計画段階で一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組込む。 ・年間3回の小中教員の合同研修会を柱にそれに向けて各部長を中心とした代表者会を継続的に行う。 ・各領域部会の定例化を図り取組を積極的に進めていく。	成果 年度頭書に提案した取組についてはほぼ計画通りに実施することができた。特に今年度は従来の取組以外に生徒会児童会の交流会や中学生による「スポーツ教室」など子ども達の新たな交流の場を作ることができた。また、再編された各領域部会が新たな取組を計画し実施することができた。	課題(改善策) 今後も新たな取組が各部で計画されることが予想され、時として一部の担当部署が単独で進むことがないように、常に推進委員会が中心になって全体を掌握しながら進めていく必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・教科連携教員による全小学校での授業(通年、毎週)を実施する。 ・教科連携教員を通して小大連携授業や小小連携授業を実施する。 ・合同研修会の中で、小中教員がTTIによる指導案を作成し研究授業を行う。 ・小中が継続的に一貫した目標で取り組むことでなめらかな接続を図る。 ・各小学校において積極的に教科担当制を取り入れる。	成果 連携教員による授業はブロック内の4小学校全てで実施できた。授業研究会を持つ中で学習内容だけでなく学習規律などについても交流できた。領域部会の中に生徒指導部会、教育相談部会を新設し事例研を持つことが出来、関係する生徒について小中の関係者が集まり交流が持てた。	課題(改善策) 生徒指導部会や教育相談部会については日常的な交流が大切であるが、定期的な開催を検討していく必要がある。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・授業研究会に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し系統的・継続的な指導を行う。 ・学習の手引きを作成し配布する。	成果 授業研究会を8教科全てで実施できた。指導案の検討を行う中で小中の教員が学習内容の系統性やつながりを意識することが出来た。学習の手引きを作成することが出来た。	課題(改善策) 授業研究会の持ち方について、教員数の少ない教科では授業者が限定されることになるため、今後検討が必要となる。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・木幡中ブロックで設定した「いしずえ学習」「宇治学」の学習プログラムに沿ってカリキュラムを編成しフィードバックする。	成果 作成された計画に沿って実施できた。研修会において各校の「障害者理解学習」の交流を行うことが出来た。「春休みの家庭学習」の配布が出来た。	課題(改善策) 各校の実施計画に沿って今後も検証活動を行い、改善を図る。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・各校に小中一貫コーナーを設置し各種通信等を掲示する。 ・「小中一貫通信」(保護者、児童生徒向け)(教職員向け)をそれぞれ定期発行する。 ・中学校の「生活だより」を全6年生に毎月は配布する。 ・各校のホームページを活用する。	成果 計画通り、各種通信を発行、配布、掲示することが出来た。	課題(改善策) 発行部数が高ブロックに比べて多く、それに見合った予算配分が必要である。分散進学にかかる小学校への配布をどうしていくのか課題である。
到達目標7	小中教員のつながりを強化し、授業研究をすすめる。	・小中合同研修会の実施。 ・領域部会の活動をさらに進めていく。	成果 全員参加の合同研修会を実施することにより、他校の教員が同じ場で話し合いを持ち昨年以上につながりを意識できた。	課題(改善策) たくさんの部会を別々の日に行うことがなかなか難しいため、どうしても合同研修会で同時に行うことになる。そのため1日研修のかなりハードな日程にならざるを得ない部分がある。

平成25年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の年度総括報告書【黄檗中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:葛山 雅(所属校:宇治小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	年度末総括(2月末現在)	
			成果	成果と課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	小中学校教職員が連携・協働できる学校組織職員体制の確立。校務分掌を小中で一つとして組織する。A部会(特支・生指・特活・学充・教相部)、B部会(領域・教科など)を定期的に設定。 職員打合・職員会議・研修会(小中合同)前・中後期主任会を設定し、小中教員間の連携を	成果 ①校務分掌や会議は小中合同で実施、②学習指導は統一した重点目標をもとにステージの実態に応じて実施、③学校行事はその特性により小中合同で行うことが有効な場合と、小中別開催が有効な場合に分けて実施。以上3点を整理することで、スムーズに小中教員が連携・協働して学校運営を進めることができた。	よりよく、小中教員が合同で会議・打ち合わせ・研修をすすめることができるよう、内容や日程の整理を進める。 教科部会を一層充実させ、系統的な指導に生かす。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	小中合同の研修会を実施するなど教員の意識を高めるとともに、共に学び、共に活動できる子どもたちを育成するため、縦割活動やステージのまとまりを生かした取組を展開する。	成果 校務分掌や会議を小中合同で実施しているため、全教員が9年間を通して児童・生徒を育成する意識が向上した。1～7年縦割り活動、学園会など、児童生徒の合同活動を計画的に実施することにより、児童生徒同士のまとまりが生まれ、自然に小中の交流が進んだ。	児童生徒の交流・合同事業については、各学年の学習進路等の状況を考慮し、参加学年を整理する必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行ったり、小学校高学年において一部教科担任制を行ったりすることにより、小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	中学校教員による小学生の指導 4・5・6音楽 5・6年外国語 小学校高学年における教科担当制 5, 6年家庭科、4, 5, 6年音楽 生徒指導を小中主任が連携して進める。	成果 小学校部における緩やかな教科担当制から中学部の教科担当制への継続が、児童の教科担当制への慣れの部分においても、教科指導の充実という部分においても効果をあげている。	乗り入れ授業を行うための小中時間割の調整が複雑で困難である。 外国語、音楽以外の教科担当制の検討。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	3つのステージに応じた学習指導 「5つの授業重点事項」を大切に学習指導を、3つのステージの発達段階に応じて実施する。	成果 児童生徒の実態から、全学年共通した「5つの授業重点項目」を設定することができた。この重点項目をステージごとの実態に応じて実践していくことにより、9年間の系統的な指導が可能になっている。	「5つの授業重点項目」について、今後の実践を振り返り、定着・継続がなければ、明らかな児童・生徒の変容にはつながらない。 教科部会を充実させ、系統的な授業研究を進めることが必要。
到達目標5	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「宇治学」中期での共同学習(きずな科)を設定し、異年齢集団による課題解決探求活動を行う。 「いしずえ学習」学習の系統性を意識して計画的に指導を進める。	成果 「宇治学」中期での共同学習(きずな科)では、各集団別にテーマを設定し、児童生徒による課題解決探求活動を行うことができた。 小中共有のいしずえ学習タイムを設定することにより、学習意欲の向上を図ることができた。	より系統的な活動に発展させるために学習内容の精選・整理を進める。
到達目標6	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	啓発・広報紙「きずな」の発行 HPでの取り組み内容の紹介 行事において小中交流の場を計画し、積極的に地域・保護者に情報発信する。	成果 広報紙やHPなどで積極的に教育活動の情報発信をした。学園体育大会、学園文化祭などの行事において、小中児童生徒が交流する場を設定し、保護者・地域に発信することができた。また、本年度の教育内容をリーフレットにまとめて保護者に配布する予定。	行事の中の小中児童生徒の交流方法については、より教育的な効果が上がるように検討を進める必要がある。
到達目標7	全学年が揃う平成26年度を見通し、成果や課題を踏まえながら学校運営・教育内容・教職員の研究システムをさらに工夫改善する。	小中学校が一体化した学校運営、小中学校教職員が連携・協働できる学校組織職員体制の確立	成果 H26に9年生が揃い、施設一体型小中一貫校の完成期に向けて、学校運営、教育内容のシステムを構築することができた。	小中一貫教育のモデルとなるべく、より汎用性のあるシステムの構築を開発していく必要がある。

平成25年度

宇治市小中一貫教育に係る視察等受入状況（市教委受入分）

平成26年2月末日現在

日付	団体名	府県	人数	視察校
5月13日(月)	守口市教育委員会	大阪府	6	宇治黄檗学園
5月15日(水)	えびの市議会総務教育常任委員会	宮崎県	8	宇治黄檗学園
7月1日(月)	福知山市教育委員会・ 福知山市小中教員	京都府	27	大開小学校・ 広野中学校
7月5日(金)	京都市教育委員会	京都府	6	宇治黄檗学園
7月8日(月)	豊田市教育委員会・中学校教員	愛知県	1	宇治黄檗学園
7月26日(金)	みよし市教育委員会	愛知県	6	なし
7月31日(水)	青森中央学院大学	青森県	1	なし
8月7日(水)	白河市議会	福島県	9	なし
8月20日(火)	五條市教育委員会	奈良県	15	なし
9月3日(火)	宇治田原町教育委員会	京都府	6	宇治黄檗学園・ 広野中学校
10月22日(火)	中野区議会子ども文教委員会	東京都	11	宇治黄檗学園
10月30日(水)	牟岐町教育委員会・ 牟岐町立小中学校教員他	徳島県	15	宇治黄檗学園
11月6日(水)	城陽市教育委員会	京都府	4	宇治黄檗学園
11月13日(水)	さいたま市議会文教委員会	埼玉県	14	なし
11月18日(月)	八尾市教育委員会	大阪府	4	宇治黄檗学園
11月18日(月)	燕市 市議会	新潟県	8	なし
11月19日(火)	生駒市教育委員会	奈良県	8	宇治黄檗学園
11月27日(水)	三条市教育委員会・ 三条市立中学校教員	新潟県	5	宇治黄檗学園
11月28日(木)	京都府教育委員会	京都府	12	宇治黄檗学園
1月17日(金)	和歌山市教育委員会・小学校教員	和歌山県	3	宇治黄檗学園
2月3日(月)	舞鶴市教育委員会	京都府	4	宇治黄檗学園

※計21団体 173名

※この他宇治黄檗学園、ひろの学園へ計14団体が訪問